100歳 おめでとうございます

矢澤八千代さん（東町）が12月に満百歳のお誕生日を迎えられました。

中﨑町長がご自宅を訪問し、ご家族の方々と一緒にご長寿をお祝いしました。

これからも、健康に留意され、元気に過ごされますようお祈りいたします。

▲矢澤　八千代さん（東町）

◎問い合わせ　保険福祉課　☎内線302

「津波避難場所」を新たに追加指定!!

町では新たに「津波避難場所」としてエリザベス・サンダースホームを追加指定しました。

「津波避難ビル」、「津波避難場所」については、津波発生時からの避難に時間的余裕がないとき、一時避難場所として活用できるよう所有者などのご理解ご協力を得て指定したものです。

▼**津波避難場所**　エリザベス・サンダースホーム

▼**所在地**　大磯1152番地

▼**使用場所**　敷地内（運動場、南側広場）

◎問い合わせ　危機管理対策室　☎内線241

町内の環境放射線量測定結果

（詳しい測定結果は、町ホームページから確認できます。）

【町内の公園・地域会館等の放射線量の測定結果】

町では、公共施設に対する放射線量の高い箇所への対応を定め、これに基づき公園、地域会館等計71か所で放射線量が局所的に周囲よりも高いと想定される場所について、環境放射線量の簡易測定を実施しましたが、調査の結果はいずれも町の基準値以下でした。

【町内の定点放射線量測定結果】

町では、町内の放射線量を定期的に測定しています。測定結果は、次のとおりです。調査の結果は、地上1m地点でいずれも国の基準値（0.23 μ Sv/h 未満）以下でした。

単位：μSv/h

測定日		測定場所	放射線量 地上1m
12/7（水）（天気:晴れ）	14時40分	大磯小学校グラウンド中央	0.07
	15時45分	国府小学校グラウンド中央	0.08

◎問い合わせ　危機管理対策室　☎内線241

過去の災害による町の被害④

大磯町域の火災

江戸時代に宿場町や漁村として発展した大磯町は、家屋が密集し、出火するとたちまち大火になる危険性がありました。残された記録によると、大磯町域は、江戸時代から多くの大火に見舞われていたことがわかります。特に明治時代は、明治6年から約10年ごとに、大火が発生していました。

明治6年8月に発生した大火は町の中心を焼き、このときの大火で、江戸時代の町並みは焼失してしまいました。続く明治15年、23年の大火は南下町を中心に焼き、23年の大火の罹災者を移転させるためにつくられた町が長者町です。明治24年の火災は、大磯町役場から出火しました。そして、明治35年12月25日に発生した大火は、大磯の約半分を焼くという大被害をもたらしました。ただし、このときの大火では、幸い死傷者が出ていません。その後も、明治43年、45年と大火が発生しました。

かつて長者町の人々は、先祖は3回も大火に遭ったと語っていたそうです。これは、明治23年、35年、45年の火災を指しているのでしょう。住環境が変わった現在では、町を焼き尽くす大火を想像しにくいですが、過去の火災被害のことを考えると、火の元には常に用心する必要があると言えます。

◎問い合わせ　郷土資料館　☎(61)4700

文献に見られる大磯町域の主な火災

宝暦12年	1762年	神明町から鴫立庵あたりまで焼失
明和3年	1766年	大磯の宿場町大火
明和4年	1767年	大磯の宿場町大火
明和5年	1768年	大磯の宿場町大火
天保7年	1836年	大磯の宿場町火災、約500戸焼失
明治6年	1873年	大磯町大火、97戸焼失
明治15年	1882年	大磯町大火201戸焼失
明治23年	1890年	南下町大火、約170戸焼失、長者町がつくられる
明治24年	1891年	大磯町役場から出火、郡役所と地福寺類焼
明治35年	1902年	大磯町大火、約600戸焼失
明治43年	1910年	中丸大火、96戸焼失
明治45年	1912年	長者町大火、31戸焼失、176人が罹災

『大磯町文化史』、鈴木昇『大磯の今昔』より作成